

【NIE実践指定校：実践報告】

効果的な新聞活用の実践を通して、互いを認めながら、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成を図るにはどうしたらよいか。(初年度の実践)

曾於市立大隅南小学校 校長 上園光行

1 研究主題について

- ア「互いを認めながら」(道徳的価値)
- イ「自分の思いや考えを豊かに表現する」(思考・判断・表現力)
- ウ「効果的な新聞活用」(指導法改善の手段としての「新聞活用」力)

2 研究主題設定の理由

(1) 児童の実態から

- ア 諸学力調査の結果から
 - 「聞く」「読む」力が不十分である。
 - 基礎・基本事項の定着に個人差が大きい。
- イ 日常の学校生活から
 - 家庭学習実践への温度差がある。(児童及び各家庭)
 - 読書は好きだが、読書機会及び読書量が少ない。

(2) N I E (新聞活用) の意義と役割

- ① 「新聞」活用から得られる基礎学力・活用力向上と思考力・判断力・表現力の向上。
 - ・ 基礎的な言語力育成の教材として…既習漢字やカタカナ等探し
 - ・ 基礎的な知識・理解の教材として…国や県、市町村名探し・新聞記事の構成の学習
 - ・ 表現力育成の教材として…気になる記事への感想文
 - ・ 活用力育成の教材として…テーマに基づいた記事を取り上げての資料作り
 - ・ 積極的な情報発信として…新聞投稿への積極的な応募
- ② 「新聞」活用による児童の「夢」(目標)の広がりの実現への意欲付け。
- ③ 「新聞」活用による家庭での親子コミュニケーションづくり。

3 研究の仮説

仮説1 (学校・授業で)	新聞を活用し指導法を改善することで、児童が自分の意見を積極的に思考・判断し、表現する力が高まるのではないかと。(新聞を活用した授業の実践)
仮説2 (新聞に投稿)	自分の意見を表現する場として、新聞投稿欄を活用すれば、児童の意欲が向上し、表現力が高まるのではないかと。(新聞への投稿と投稿記事等の掲示)
仮説3 (家庭で)	家庭との連携を図り、家庭学習で新聞の活用により、児童の学習意欲が向上し、文章力などの表現力が高まるのではないかと。(ファミリーフォーカス)

【新聞活用のねらい】

低学年	新聞に親しませる	「また新聞を使って勉強したいな」	(期待をもたせる)
中学年	新聞を読ませる	「新聞はおもしろいな」	(関心・意欲をもたせる)
高学年	新聞で考えさせる	「新聞は便利だな」	(思考力・判断力・表現力を培う)

4 N I E 初年度の研究の視点と計画・方法

N I E の積極的な取組の推進 (新聞を活用した授業の在り方はどのようなものがあるか)	
親しむ・読む (考える)	○各学年・学年部の発達段階を考えたN I E 提案授業の実施 (教科等との関連) ①全学年一斉 ②3・4年 ③3～6年合同 ④1・2年 ⑤5・6年
環境 づくり	○学習したことの振り返りの掲示 ○テーマに即した思いや考えの掲示 ○新聞記事やコラム等を活用できる場の設定 ○新聞コーナーの設置・運用 ○新聞に掲載された投稿作品の掲示 ○N I E 学習での作品の掲示 ○個々の児童の夢・目標の常設掲示 (キャリア教育との関連)

5 研究の実際

(1) 授業実践

学 習	【特設】新聞を知ろう (オリエンテーション)	6 / 5 実施
学 年	1～6年同時実施 (全10名)	
ねらい	① 新聞の仕組みについて、各名称を押さえることで理解させる。 ② 知っている言葉や漢字に○を付ける活動を通して記事を読ませる。 ③ 一連の活動を通して言葉や漢字に興味をもたせるとともに、新聞に親しみをもたせる。	
展 開	1 「今日の新聞から」記事の範読を聞く。 2 新聞1面を使い、各名称を押さえる。 3 知っている言葉や漢字に○を付ける。 4 ○を付けた言葉を声に出して発表する。 5 自分の名前の文字を探す。	
資料等	○児童活動分…南日本新聞5/28号(動く弥五郎どん) 南日本新聞6/1号(ホテルの里)・拡大版(1面) 朝日小学生新聞5/30号(ごみゼロ5月30日) ○範読用…朝日小学生新聞6/5号 ○赤鉛筆, マーカー, 色鉛筆など…丸付け用 ○電子黒板…発表用	

学 習	【社会】鹿児島, 日本, 世界を見つけよう	6 / 23 実施
学 年	3・4年複式 (全3名)	
ねらい	① 新聞の記事から、どこでできごとなのかを読み取ることができる。 ② 鹿児島県内の市町村名、都道府県名、世界の国名がわかる。 ③ 県内地図、日本地図、世界地図で場所を確かめることができる。	
展 開	3年	4年
	1 新聞を読み、都道府県名を見つける。 2 地図に色をぬる 3 「わたしたちの曾於市」を色分けして気づいたことを発表する。 4 電子黒板で確かめる。 5 曾於市の土地はどのように利用されているか確かめる。	1 新聞を読み、都道府県名を見つける。 2 地図に色をぬる 3 事故の記事を見つける。 4 交通管制センターの働きをまとめる。 5 地域と協力する取組をまとめる。 6 事件や事故を防ぐ取組を確かめる。

学 習	【国語：特設】伝えたいことは何だろう	11 / 7 実施
学 年	3～6年変則複式 (全6名)	
ねらい	3・4年	5・6年
	1つの共通した新聞の記事を読み、「見出し」をつくることを通して、筆者が伝えたいことを見つけることができる。	1つの話題に対する異なる2つの新聞の記事の「見出し」を読み比べて、視点や立場を変えながら「見出し」をつくることができる。
展 開	3・4年	5・6年
	1 新聞の構成について振り返る。 2 「見出し」の意味を考える。 3 課題となる記事を読む。 4 記事の内容と伝えたいことを考える。 5 「見出し」を考える。 6 自分の考えた「見出し」を発表する。	1 新聞の構成について振り返る。 2 「見出し」の意味を考える。 3 学習方法を確かめる。 4 同じ事象に対する2つの記事を読み比べ、共通点やちがいを調べる。 5 「見出し」のちがいとその理由を考える。 6 別の記事を読んで、自分なりの「見出し」を考える。
資料等	○毎日小学生新聞新聞：平成26年10月29日記事「相手の気持ちを大事にする」 ○琉球新報：平成26年10月30日記事「糸満, 初の決勝 ～秋季九州野球～」 ○南日本新聞：平成26年10月30日記事「神村 延長で決勝逃す」 ○南日本新聞：平成26年10月30日記事「なでしこ カナダに連勝」	

学 習	【国語：特設】次のせりふはなんだろう！	11 / 10 実施
学 年	1・2年同時実施（全4名）	
ねらい	① 新聞を活用する学習に楽しく取り組もうとする意欲をもつようにする。 ② 空いている台詞を考えて、その理由をつけて発表することができる。	
展 開	1 絵を見ながら範読を聞く。 2 自分で読んだりみんなで読んだりして、課題を考える。 3 四コママンガの話の流れを考える。 4 作った台詞で四コマ漫画を発表し合う。 5 他の四コマ漫画の台詞作りに挑戦する。	

学 習	【家庭】きれいにしよう クリーン大作戦：トライ！エコ生活	1 / 21 実施
学 年	5・6年同時実施（全3名）	
ねらい	① リサイクルに関する記事の中から問題点を見つけ、自分の意見を考えると共に、友だちの意見を聞いたり話し合ったりすることで、自分の考えを深めることができる。 ② 問題点から考えたことや友だちの意見・自分の感想などをまとめて文章に表すことができる。	
展 開	1 新聞記事を読む。（南日本新聞 平成26年12月14日「記者の目 食とごみ」） 2 問題点を考える。（個でできる問題点，協議したい問題点） 3 問題点についての意見を書く。（個人の意見，友だちの意見との比較） 4 問題点について協議したことをもとに感想を書いて発表する。	

(2) N I E 環境

①学習したこと（知識・理解）の振り返りの設営



1～6年全員で一緒に学習した，新聞記事の構成の内容を，学習後に掲示板に掲示し，日常的に目にふれるようにしている。

②テーマに即した思いや考えの記録の設営



一週間ごとに1つのテーマの記事を読んで，児童それぞれが思うことや感じたことなどを記述し，記録として積み重ねて掲示している。

共通のテーマ（記事）でも，個々の考え方にちがいが表れている。

家庭で保護者と共通の話題をもつ機会となっている。

③新聞記事・コラム等を活用できる場の設定

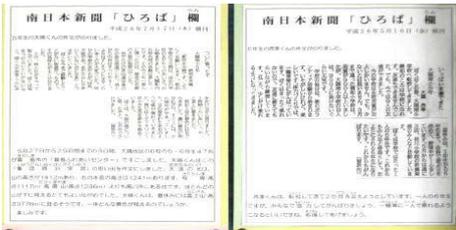


新聞記事を活用して，いつでも「コラム」模写や「お気に入りの記事」，新聞への「投稿」作文などを書くための様式が準備してある。

基本的には児童が主体的に活用していくために常設して

いるが，国語科や社会科の授業で，この様式をそのまま活用しているケースもある。「いつ」使うものという限定的な考え方はしないで，活用できるとき，書きたいときに使う。

④新聞に掲載された投稿作品の掲示



南日本新聞「ひろば」欄への投稿を積極的に推進し、掲載された作品の写しを校内掲示することで、掲載児童の自己有用感を高めると共に、他の児童の、書いてみることに意欲を喚起する。

⑤N I E学習を生かした児童の作品の掲示



各学年の発達段階に即したN I E学習でできた作品を廊下等に掲示することにより、友だちの作品を互いに認め合う気持ちを育成すると共に、自己有用感を高める。

⑥個々の児童の夢（目標）の常設掲示



児童の夢（目標）を掲示することで、自らを高めると共に、自分とは異なる友だちの個性を互いに認め合う場とする。

N I Eの取組は、様々な新聞記事とふれあう中で、自分の夢（目標）が大きくなったり変更したりすることにも寄与する。その根拠となる記事を説明するなどの表現力育成につなげていけると考える。

⑦新聞コーナーの設置・運用

本校は全学級が校舎2階にあるため、全児童が毎日上り下りする階段の2階踊り場を利用し、新聞コーナーを設置している。



長机と椅子を2脚設置し、児童が学習のために、あるいは準備時間等に何気なく新聞とふれあう場としている。

朝の会や帰りの会での「今日（昨日）の出来事（ニュース）」を当番になっている児童が調べていたり、社会科や国語科の学習で使用する記事を探したりする様子が見られる。

6 研究初年度の成果

- 児童自ら新聞を手に取り目を通す機会が増えた。（習慣化）
- 全教科に関連させて取り組みやすいので、教師がさまざまな角度から研究し、いろいろな場面で新聞活用の実践化を図ることができた。
- 毎週末、全学年共通の話題・記事の感想を書く課題を家庭で取りこませることで、家族のコミュニケーションが図られている。（ファミリーフォーカス）
- 児童が新聞活用によって、身の回りのことから広く世界へ目を向けられるようになった。
- 新聞投稿をする中で、自分の作品が掲載されることによって、自己有用感や自己肯定感を児童に実感させることができた。

7 今後の課題

- 記事の読み合わせを行い内容の理解を深めた上で記事に対する感想・考えを深める。
- 複式学級での指導が主体だが、内容によって合同にするなど、学習の形態を工夫する。
- 指導事項や目標に沿った、有効な記事の活用と精選を行う。